

## 体感温度について (WBGT)

### ■WBGT (Wet Bulb Globe Temperature; 湿球黒球温度)

熱中症予防のため、人体の熱収支に影響の大きい湿度、輻射熱、気温の3つを取り入れた指標で、乾球温度、湿球温度、黒球温度の値を使って計算

※WBGT(湿球黒球温度)の算出方法

屋外:WBGT = 0.7×湿球温度+0.2×黒球温度+0.1×乾球温度

屋内:WBGT = 0.7×湿球温度+0.3×黒球温度

\* WBGT は、ISO ならびに JIS で定められた規格であり、労働環境において作業者が受ける暑熱環境による熱ストレスの評価を簡便に行うことができ、速やかな判断を可能にする指標

\* 暑さ指数とも呼ばれ、もともとは軍隊で、熱中症予防のために提案された尺度として用いられていた。

気温(参考)	WBGT	レベル	日本体育協会(1994) 熱中症予防のための運動指針より 熱中症予防のための運動指針
35℃以上	31℃以上	運動は原則中止	WBGT温度が31度以上では、皮膚温より気温の方が高くなる。特別の場合以外は運動は中止する。
31～35℃	28～31℃	嚴重警戒	熱中症の危険が高いため激しい運動や持久走など熱負担の大きい運動は避ける。運動する場合には積極的に休息をとり水分補給を行う。体力低いもの、暑さに慣れていないものは運動中止。
28～31℃	25～28℃	警戒	熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり、水分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
24～28℃	21～25℃	注意	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに運動の合間に積極的に水を飲むようにする。
24℃以下	21℃以下	ほぼ安全	通常は熱中症の危険性は小さいが、適宜水分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

### (参) 熱中症の患者発生数 (救急搬送患者) とWBGTの関係

・東京消防庁提供の救急搬送データ(東京都23区)と気象庁提供の気象データ(東京大手町)をもとに作図されたもの

